

# ちば里山新聞

(第16号)

編集 発行 ちば里山センター  
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148  
 電話 0438-62-8895  
 題字 倉島 貴浩  
 (ワークホーム里山の仲間たち)

## 公益保全林調査とマスタープランの作成

### 県とNPOとの共同事業受託

県民の財産である公益保全林の利活用について、調査を行い生物多様性保全など考慮した提案を、今年度中にすることになりました。現在役員を中心に現地調査を行っていますが、今後広く会員などにも見てもらい、意見集約する予定です。



## 会員団体紹介

### 里山作り拓樹

#### 美しい日本の自然を子供達に 「里山作り拓樹」の願いです

2007年より南房総市川上で里山活動を開始し致しました。現在フィールドは雑木林・杉林・竹林があり約1町歩です。

自然は何もせずそのままがいいと思っていました。そして時が過ぎていくと、子供の頃から見ているこの地は木々が大きくなり、竹林はどんどん広がっていました。

ちば里山センターさんに見て頂いて初めて教えられた事は、このままでは山が全部竹林になっちゃいます・・・調和のとれた森を維持するには手を加え続けなければならない場所なんですね。里山作りの最初の作業は荒れ放題になっている竹林から始めました。山を登る竹の伐竹からはじめて、昔畑だった場所迄、やっと出来上がった次第です。小さな力ですが今年は、写真のように綺麗な竹林となりました。イノシシに食害されても毎週末に筍がとれたのが一番のご褒美となりました。

竹林の整備方法も少しずつですが判り始めました。ベンチやBamboo House・オイル缶での炭焼等伐竹材を生かして楽しんでおります。

皆様のご指導のお陰で、道作り・間伐、整理と里山に関する実作業を教えて頂きながら、子供の頃の里山に戻ることを夢見て活動してます。まだまだ整備する場所は沢山残っておりますが、木々の香り・爽やかな風・心地よい光と自然に励まされ活動を続けております。



#### 「里山作り拓樹」の概要

| 代表   | 設立年月日      | 会員数               | 活動地                       | 活動日          |
|------|------------|-------------------|---------------------------|--------------|
| 岡本 透 | 平成19年9月21日 | 個人会員10名<br>法人会員2社 | 南房総市川上<br>雑木林・人工林・竹林 約1町歩 | 第二日曜日<br>他随時 |

# 第5回 里山フェスティバル開催

(里山体験コースとシンポジウム)

## 5月10日(土) <sup>うま くと</sup>歴史の里「宇麻具多の山の学校」探訪コース (木更津市) (参加者48名)



千葉駅から  
送迎バス到着



竹コップと  
箸をつくる



## 5月11日(日) 養老溪谷で里山づくりとハイキングコース (大多喜町) (参加者34名)



地域の子供たちが協力してくれました。



アジサイの植栽

## 5月17日(土) 「ヒューマンリゾートながら」ふるさと再生大作戦と 竹細工体験コース (長柄町) (参加者49名)



老若男女夢中になった  
竹とんぼづくり



休耕田の草刈り

**5月10日(土) 里山シンポジウム**  
(千葉市・東京情報大学) (参加者450名)

○講演

「里山：人と自然の共生の場」

岩槻 邦男 氏  
(兵庫県立人と自然の博物館 館長、  
東京大学名誉教授、生物多様性JAPAN代表)

○パネルディスカッション

テーマ

「里山と生命(いのち)のにぎわい」



**5月24日(土) 手賀沼湖畔の里山植樹体験と水上自然観察コース** (我孫子市) (参加者27名)



鳥の博物館



水上バスでの自然観察

**5月25日(日) 文化の里で森の手入れと竹細工体験コース** (匝瑳市) (参加者17名)



除伐した竹で鉢や花器などを作る



竹の除伐作業

**5月31日(土) 森林整備とジャガイモ収穫でミニ里山体験満喫コース** (八街市) (参加者48名)



泥んこになってジャガイモ掘り



初めてのノコギリ

千葉県森林課  
伊藤課長の

## 里山整備保全活動を語る 第1回

里山整備保全活動に対して日頃から感じておられたことを4回ほどシリーズで掲載します。

### 里山に集う人々の多様性

県森林課長の伊藤です。思いつくままに何回か書かせてもらいます。よろしくお願いします。

「市民が支える森づくり」という概念が急速に市民権を得たのは10数年前です。日本の森が荒れている、林業関係者の努力だけでは限界にきているとの認識が拡がり、市民レベルでも単なる行事参加でなく、地域の森づくりに参画し実践しようという機運が広がってきました。

1996年2月の「第1回森林と市民を結ぶ全国の集い」の熱気を昨日のここのように思い出します。週末に全国から集まった市民たちが、それまでの林野行政のあり方への批判や市民による森づくりの将来について、夜を徹して議論していました。

個人的に参加した私は、奥多摩はじめ各地の実践内容や立ち上がったばかりの連携組織である森づくりフォーラムの仕組みなどを聞いて、千葉県でも森づくりグループのネットワーク化をしたいと発言しながらも、個人でどこまでできるかなと考えていたのを思い出します。

この時期には、県内でも谷当グリーンクラブ(千葉市)や市原フォレストクラブ(当時)などの活動が始まっており、今回改めて記録を確認すると1992年2月には自然観察指導員有志が千葉市の雑木林で(生物多様性を求めて)アズマネザサの刈り払いをしています。

県でも関係者向けだった林業教室を市民向けの森林林業教室にリニューアルするなど様々な試みが始まっていましたが、活動団体のネットワーク化は堂本知事による里山条例の制定、ちば里山センターの発足まで待たなくてはなりません。今にして思えば、千葉の自然の実態からすれば、「森林ボランティア」だけではなく、もう少し幅の広い「里山活動団体」のネットワーク化が必要だったでしょう。

里山の生物が多様なように、里山に集う人々やその思いも多様です。今年の里山シンポジウムの22の分科会に象徴されるように、環境、水資源、教育、健康、福祉、税、地域づくりと多様な切り口で多くの方が里山活動に取り組んでいます。ネットワークを組んでも何を連携するのか、日々変化していると感じています。市民・企業と行政のパートナーシップのあり方を模索する日々が続きます。



県内の里山整備保全活動地で  
自生していたスハマソウ

### 平成20年度 通常総会について

平成20年6月8日(日)通常総会を行いました。「おとすれ山の会」高橋和靖さんを議長に選出し、議案の平成20年度事業計画などが承認されました。終了後、事前に実施したアンケート(資金源の確保、里山の多面的利用、困っていること、備えてほしい備品など)をもとに意見交換会を実施しました。

